

景気景況調査報告

(第11回)

平成30年 7～9月期 実績

平成30年 10～12月期 見通し

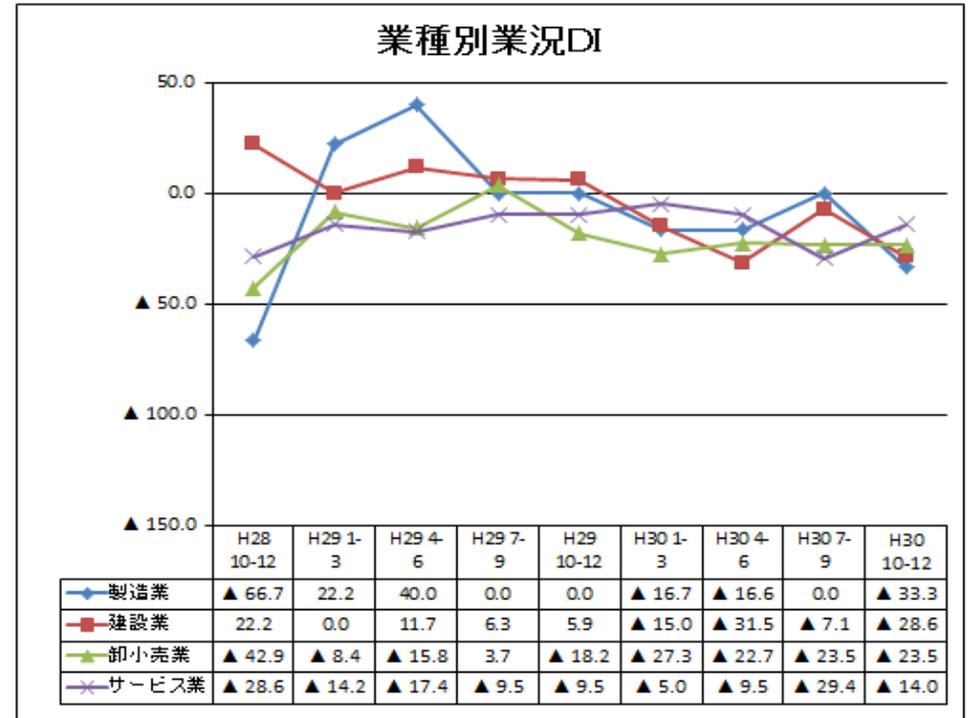
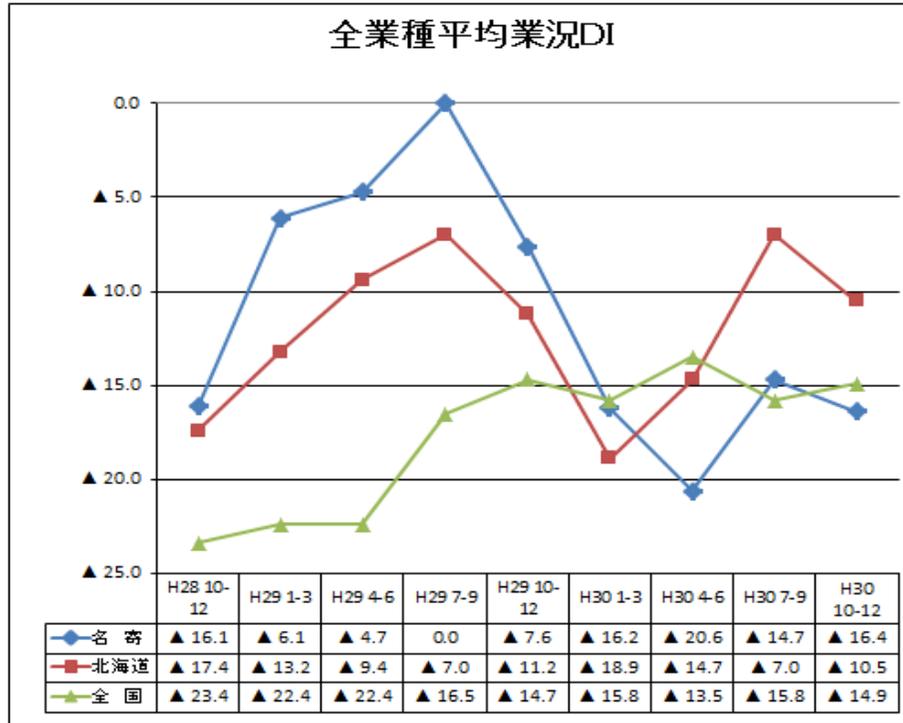
平成30年11月

名寄商工会議所

I 調査要領

- ①調査対象期間 平成30年7～9月期の実績及び平成30年10～12月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願い）53社

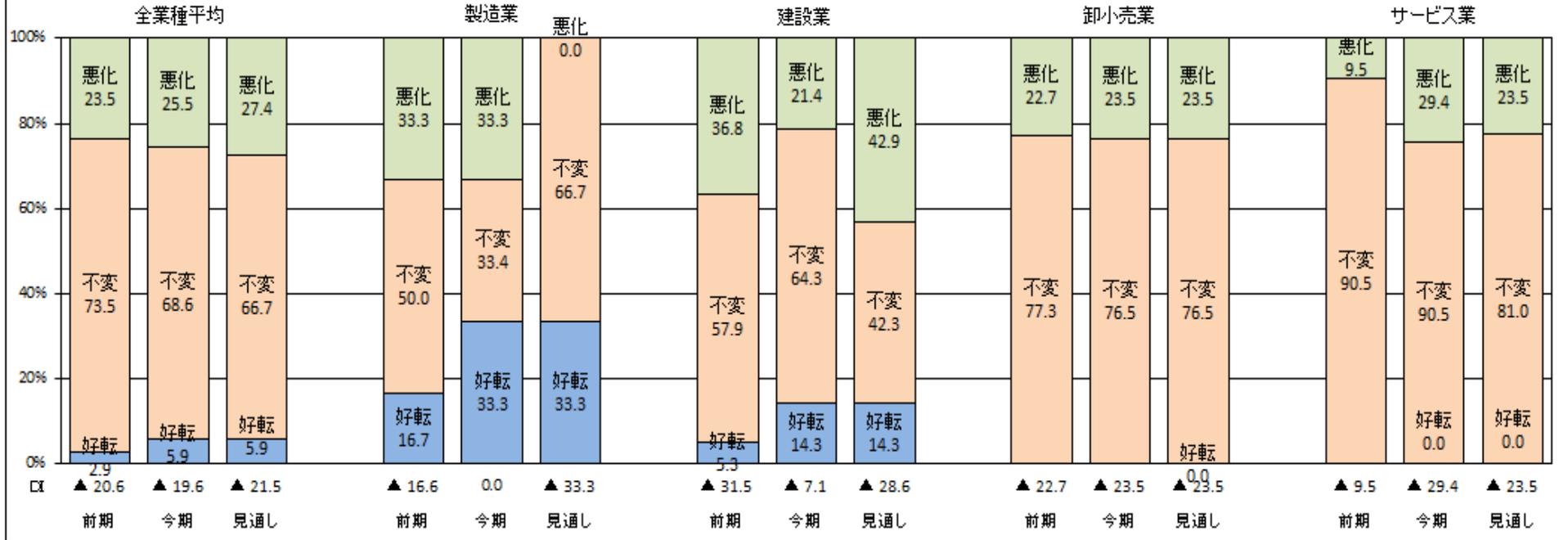
II 調査結果



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- ・今期、全業種平均で▲14.7ポイントと前回の調査に比べ5.9ポイント上昇、製造業と建設業で回復傾向が見られた。見通しでは1.7ポイント減少となり悪化が見込まれる。
- ・北海道（道商連調査）の景気と比較すると、今期7.7ポイント悪いが、見通しでは5.9ポイントまで差が縮まっている。
- ・全国（日商調査）の景気と比較すると、今期は1.1ポイント良いが、見通しでは▲1.5ポイント悪化見込みとなった。
- ・見通しでは、全国では改善傾向にあるが、名寄市、北海道は当期より悪化傾向にある。
- ・業種別では、サービス業が見通しでは改善傾向となり、製造業・建設業では悪化の見通しとなっている。

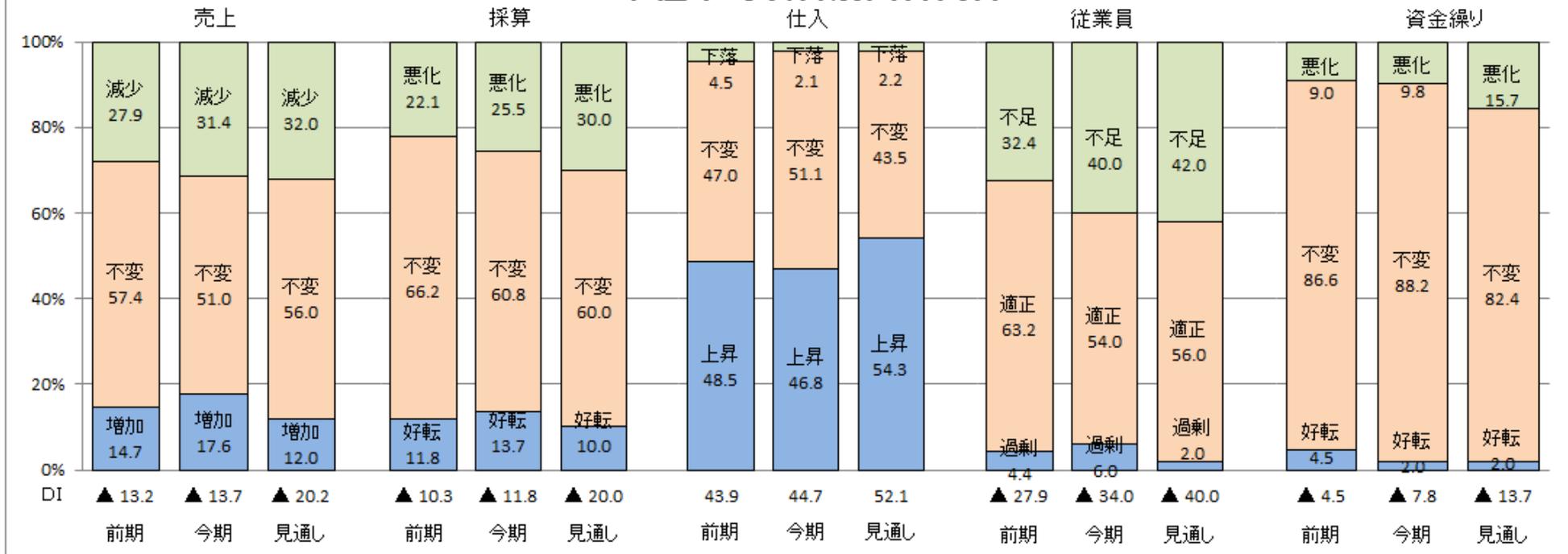
業種別業況回答割合



※D I : 「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～** 前期「好転」より今期は16.6%と増加し、見通しでも今期と変わらない状況となっている。見通しの「悪化」はなくなっているため回復傾向にある。
- 建設業～** 今期は前期と比べ「好転」は増加し「悪化」も減少しているものの、見通しで「悪化」21.5%増加と厳しい状況にある。公共工事や民間工事の減少、利益の低下や人手不足により業況が悪くなっていると回答。
- 卸小売業～** 今期「悪化」23.5%と前期より0.8%やや増加し「好転」回答はなくなっている。胆振地震での影響から配送遅れや仕入単価増加等により、見通しでも「好転」が見込めない状況となっている。
- サービス業～** 今期は前期と比べ「悪化」が19.9%も増加。影響としては胆振地震の停電に伴う食品の廃棄、原油価格の高騰が影響を与えている。見通しでは「悪化」5.9%減少しているものの「好転」回答はないため継続して厳しい状況下である。地震の影響以外にも、人手不足や高齢等による意見が多いことから「好転」回答がない状況である。

全業種平均項目別回答割合



売上 DI

[好転の要因]

[悪化の要因]

見通しは▲20.2ポイントと今期より6.5ポイント悪化見込。今期は改善している。

・住宅改修等事業補助制度の希望者増加、リフォーム助成金の工事が集中

・公共工事の減少、発注減少、人手不足 ・高齢化 ・インターネット化 ・技術者不足 ・ハウスメーカーの増加

採算 DI

[好転の要因]

[悪化の要因]

今期▲11.8ポイントで前期とほぼ変化なかったものの、見込みでは▲20.0ポイントと今期より8.2ポイント増加。

・企業努力により経費削減 ・住宅リフォーム事業により工事増 ・客単価上昇 ・外注経費の削減

・胆振地震 ・受注減、売上減 ・人件費高騰 ・燃料価格上昇

仕入 DI

今期44.7ポイントと前期より0.8ポイント増加。見通しでは7.5ポイントと増加傾向。

[上昇の要因] ・原油価格の上昇 ・人件費上昇による値上 ・資材や原材料の高騰 ・災害、日照不足

従業員 DI

[不足の要因]

今期34.0ポイントと前期よりも6.1ポイント増加。見通しでも6ポイント悪化となり従業員不足が懸念される。

特に建設業による不足の声が多いが、広範な業種において人手不足は深刻な状況となっている。

・仕事量に対して人数が少ない ・募集しても応募なし ・高齢化により退職者が増えた ・技術者や経験者がいない

資金繰り DI

今期▲7.8ポイントと前期から2.5ポイント減少。見通しでも今期同様となった。

売上増加にもかかわらず、仕入単価の上昇や設備投資をしたことが要因と見込まれる。